東海四家仙

山中唐日出たのうら月
さし寄せ住坐秋気
身を耳目をよろこばしむ
たのむ推の木の陰を偽
て不使れる大山の人々の
推の家をむすび乾坤の

椎の実を拾ひて一夜泊
いてたりさんさ日間の
ゆめ夢人てるの奥りゆの
ことくたしのしられさこの信を
京面四京仙とゆめ夢のし
あいらそは清風竜申命

花堂ことかく小さくなる　樗堂
蓮の葉をたむるまそそ紀　白雄
としくる蓮ハかをうらて　椿朝
白のふたみそるのそ　秋隆
塩焼う涼そ月を袖よのせ　東屋
ひとかそかるを拾ふ松さ　朝

[illegible]の[illegible]仲桂　函
はなぞのの[illegible]もいとこなみて　看
かくそそと人は[illegible]桂堂　情
きたちく[illegible]たちの[illegible]　函
[illegible]事おのの[illegible]るを[illegible]れ　胡
あふさかの[illegible]秋の月の[illegible]　情
[illegible]のたを[illegible]のおもえ　看
地もいとは[illegible]ふるの雪　胡

[illegible]ぬるとも　函
仲のあそをもふる　看
[illegible]みいはぬ[illegible]かふ本[illegible]け　情
[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]も[illegible]　函
[illegible]の[illegible]年の[illegible]泊して　胡
[illegible]なる[illegible]本をたきの　堂
村[illegible]あたまは[illegible]ん　戈
[illegible]ふ[illegible]なる　一

はのあらかるをみてそのむ　堂
分のそとくをかるたを　る
ゐるこの人は情ある国ふるてて　い
和のあしはみをへはまは　堂
はやと和のをもしやを　る
枝のかしらのををれむ　い
をるをとをれいめつをしれを　堂
をのあるをるを和の雑歌を　る

小ふくろをふくてもをるをを　い
やたくらをけて作る山畑　堂
はなくるををのををみをを　る
をかををるをる人く　い
ひくはををををををもの上　堂
ををるをのををくを　る

生のひる程うたゝ世間咲さて　東屏
寄もくらゝ孫るまでてるの陳　白絹
老のそなさてゝのくゝたかなわ　桂明
年齢のよるまてゝよる程梅毛　東屏
多風や人は絵うもちな梅　白絹
昏々の多て孤つく寄この風　桂絹
さて咲緑のもきわたなゝ

くて仏生なる羽をたゝりうえて
そなくのこゝく老ム出うもりあはと
みせんとなるゝとなふんて歌俳の
某まてさゝちまかきまいを
乃乃中アにるもんさゝて
のの歌なのゝさかりまはれ
とねむこゝろよつくる老ムを猫の
わつゝひなる

むこうのやまにりさくなんのかみや
九月保波川よりまゐらるるものの
流ながれてやんぬかねひろ殿
あるよるみえわたるさかるまで
一ぐるまうつるこのあ怪異の
百くあをくまにやもすれば
あをひたすら或はみみ或はみ
すはるかるにうの嵐山の麓大堰川

よせてあるいかだ種生のたちぬ
家月格をかるるを数人ながらも
笹を回しくしてもむくるる海
みたはふ
ものあやはすとあるを嵐山
はるこそあるものふくを
結のく　武陵

たいるもらあ鈴やちんか鈴筆　桂堂
月おちかるふ月のの　武陵
朴の木はさも桐のひろて　心泉
塔形ひろ紙をつ屋敷　桂朔
えきくるつきのしん　東眉
紬のへみきむきけるみの　泉
紬の息ちゆるやなる法の音　陵

かよ行つく一ちの　朔
大きき人ちちゆぬ案の家　眉
らやゆきるそ博の桜　陵
笠ち月のはるもちとて　泉
小宝かつもまの重　眉
きふたる猪のふとと猪の世　朔
ぼ種ちなのとあふもは　泉
むくくと紀て見るみの仮　陵

まさ木ぬ[illegible]とらるも鳴くん　朗
義べのうえに宮なるもいなて　眉
遠ふきねうえまのおる　陵
なひたに咲まけるる新羽　桃妹
所をつくとうるし　耕園
家しあの採川乃みたるを　曉浦
年の名ありて年わすれる　堂
まとまに名残をのせてゆうあり　園

やうてはあしの羅をぬこす　妹
弱年の仲の宮ふれちるかも　堂
名木ていに　おのの宮や　浦
月をきあるる紫の山なれや　妹
かのゆふうをもむいて　園
相の雲にはやうまてみせるや　浦
既まのまに　左宮人　堂
り行をまかきたのる色の塔　園

柴ばかりの紀尾のわらぬし　妙
おくらの絵てもの路をまもる宮通　堂
たちおきてふけるさし　庫
信こうきもの本おもの風　珠
おくのてんをとふくむまるを　園

ゆふくれの時て第をもるふる屋和　松朔
宮ふたと月の月るて海くねふ白路
らるる時の月くねるやうの本　東屑
蛙和をやるふやまあ月のろ野花　末信
ひとらくちやるをみる牡みあ和　松朔
さのあ東物個して物ふ大丈
たまふのそるくれみくるの風　東屑

さゝなみの山もかすみて春の色
清流のみとゝ[illegible]なる[illegible]茶こゝの和　武陵

名月の夜に作るはなをかな　東眉
さく〳〵けふ　新月の月　成美

ちゝゝと湯ゝ[illegible]ふるゝ　一茶
あとあつ[illegible]ふるる　浙江

すゝ乃年とる姫のいとゝく　一瓢
誠　松乃おもをたゝまは　久藏
入お宮　和のあゝしもゝ風　心亜

茶
美
瓢
江
亟
藏
美
茶

江
瓢
藏
武陵
稽朗
白跡
眉
朗

そなたのそのことをうらもなく
いつまでとあのうぶぶかけて　眉
月なきそらのこころ　跡
あくるあかつきのしらつゆの　侵
ゆふぐれのはをぬぎすてる　湘
俤をのこすけぶりかな　跡
うんふのあをとのそらの　眉
みそはのくるるあかつきの　湘

ぬるのふくまれるあしの　侵
とぶのあかつきのはをみる　眉
春のうちをあるくすがたの　跡
大根の花を吹くるあれうけ　侵
かもるあのふれなるものは　湘

[illegible]なくひ　拾遺　白路
も経る用をおもきの和の用　拾朗
大橋をやうさゆんの川　東屋
橋毒や[illegible]ゆけばもとてを　武陵
ひとつ[illegible]あるもまつまる　白紙
ふきくの上るものかをかを　拾湘
くるかをやいるこのもの　東屋

[illegible]おもきの月の[illegible]　武陵
[illegible]とひとつ社の風　白紙
[illegible]て一[illegible]　拾湘
橋毒の拾[illegible]　東屋
[illegible]きてはまつまさき　武陵

あのえさなく月よそをえて行くそら　柏朗
ちらちらとふる雪の梅の花　梅南
春もまぬ大井の家を見ぬよりて　士朗
そらの雲れそめてかすみて　鹿野
ゐるのことにいとはるかなる　南
陸のいつこ水風をたちそめ　桂五
もちの風をたのの春吹てまて　竹有

かくまれ巣ちよりかちる花子　朗
新たに付る系のそ集ちそし白し　野
はるさの仮れ[illegible]かに減ちる　南
つる雲ちそきのそ人ちそ見れ　五
はの中そと仕てもちと引あ　有
月のそ見はをを伐ちそ折も　朗
かくそのそちるにもちそそ　野
ちあ出そ新ちのそかくも　南

はるばるとうつくしかりける
花ゆゑ春ゆく山のくれ　立有
もろともにあはれと思へ山桜
花にあかぬ歎きをしてはる　朗
眺めかな春のこころは誰かまた
花の咲くとて春ゆくしらん　東眉
春ごとに花の盛りはあるものを
なほうしとやは思はざるらん　白路
今とても秋の山べは思ひ出
むかしとやはる月かげ　武陵
春

三月さかりの比ふるさとの花
見物を人々もすゝめられ侍りし
ちるのこころを思ひ出て
夕日の花はなごりをしみ　眉
暮れぬとはいつの時とか思ひ
はるかなる川瀬をたゝる紅の
葉の木もひきやすらへ遅桜
あらはれのかゝるを惜む春の

眺望とゝのへまほりふり　眉陵

遥々とのはるかすゑのはてまで

雲のゝ上ゝ行もとゝ　路

ゆくまでとはるまでかすみたる　眉

くもや打をはらふの山風　指

こゝの月あるかなきまでさまもなし　伝仍

老いけやつ歩くふるの月　東眉

そらてなまらら　花ゝゝ

あるはゝ義仏なかめ

いくとに

吹ゆくのちに清なる古は風　桂朗

晴ゝなら桜ゝゝ小松影　和陵

そのゝ戸やわまもすけて月の雲　東眉

こかしの夜話してや松の月　桂郎

偶来松梅下

松ふかきそのもりしたの露　忘郎

ちとせをのきに秋ふる雨　むつ女

ちとせ

雨の花人さそふてはるるかな　ひこ　砂壺

やすあかりてふたりぬる松の秋月　眠石

月見るに人のちとせをかたるかな　仙雪

梅の雨れ面白ふ降ちとせ　曲丸

山の鶯てはの和歌を晴れ風　蕪井

そのの月ひとりとはおもふなり　羽人

見るものるやみ雨　義丸

苗代を天氏香久山見てをよる田
作陸奥のゆくも見なら秋萩咲
しらいやゆきこまるなのうつる
山みてをよるもうしや桂笠
野風の花ゆゑ秋の風
夢をゆく時をさくらゆ鶴
おらせても七夕一年に逢
野もまてを嶋の山ゆの風
柳尾

物思て物をもはそ思ふ決少
なうしとをそ思ふ
山ゆまの花の時をそ入ねゆ秋
おらせ物思ふ
たい秋の夜もたゝ月物思
四ゝ月をあかるや夏ゝ
山さゝ河の流もなく
も持程性を答ふ何手

十二

世の中やたゝひまもなき雪の花　春雨
みとりなすてゝ山もてるもえてうす　梅屋
そゝろ雨やゝ降つのはなさくかゝる　波一
さし込てまたうたやあの梅　田九日
うゝもこゝもとりてもまいはよ　梅舟
梅のはなしてなすてとゝ雨よりは　仲波
枯尾花ひう降てゝ心かゝるゆふる雨　青蛙
仏一本もいてもうたゝまの月　悟園

一ゆさしまてゝゆかに花の月　毛屑
ゝの日ゝに二ゝ雨なる花盛（イヨ）　孫堂
ゝるかゝゝゝゝゝゝゝゝる　の月（イナハ）　大笑
ゝゝ梅の月ゝゝ梅や梅の門　め仲
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ　大風
あのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（ココ）　月化
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　蓼
二月ゝゝゝゝ　月の雨　南美

[illegible]の事[illegible]
[illegible]の用[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋風にかすかなる秋の陳　一葉
七夕の七日なるべき日の月　はじめて
初陸奥をはけてみるひの上　一葉
嘆くとて嘆たくなるぬれぎぬ　相模
行のなき里なこのゝ梅の花　未徴
君のゝ為をのつゝなるもなれ　五陽
とゝゝるとてなれとなれる　重之
さゝ松かゝ我のゝなるもん　仏対

ゝゝきゝ秋をなる月とゝゝ　重之
雁のきくなるものゝ思はるゝ　重月
野にもとてもなむひとゝゝ　重人
面おけゝゝゝゝゝ梅の月　陸奥
ゝのゝゝゝゝ梅の月　陸奥
ゝゝゝ嘆ゝ　重月
ゝゝ嘆ゝ　双雪
ゝゝの花のゝゝ　素性
乾鮭の月ゝゝ　菊麿

松風のとまるとやこたへけん　吐月
山陰や木の葉ふきしく嵐　信樹
紅葉をもしくおやぬきて　文城
木葉ちる松の元に踏みとゝかぬ　松居
消てゆくすゝきの穂に詠て　十手
もこの秋の紅葉ふゝめる　園生

一字題

踏てもやてをる教　教居

雁の音をせあかけて降時雨　乱（ヒセン）　笑二
紅の花やあるとなれてはの色（サウ）　木葉
もこの山さくらを夏まこハ雪の色　雪
鶯の岩をなるこえ初の色（カハ）　来雅
もこの水ぬるゝ花の上（ナニハ）　芳閑
色は同るかゝるけたるこやの色　宋元
山角をもに出るもの色　もとる
さゝもこの心あるゝ色　友風

[illegible]
[illegible]
[illegible]

もの月のはてて月の光 外ち
けたるあの松てある月 三ほ人
名月の松あるるあらはあの〳〵へ 井屑
埋たをあの月 月乃さらかも 紀雅
西ふいたたたさむ 秋の月 同居
つまのるれ紀るむつまるる もち 家橋
やもの方紀まてとろ柳る 山之口 丈宗
つたる川をなる紀てむさる るみ

又ふ紀人ふ又柳 宗紀
代ふ色入い 梅の白ふ ふ水
梅の紀ふふ あれい咲ふ 下丈
芝海のふる咲 ふも紀白の ふ春
長ふ月 みを咲る田の雁 京 安房
名月やふ紀ふ 代雪
まのは乃 ふ松て入る 笠ふ
野ふのあたる蔦ふ 東紀

第五段　はるゝ梅　毛峯

苔の花をはなのかゝるとは　たの沢

三月ばかり梅のやどなれば　春屋

川風やうるはしかれて　呼鶯　我孔

梅見てもみさまつても同あれ　双面

ゆかしたゝるに紅のうすゆき　玉雪

さきそめ同みるそめて　雪篇

さきそうるに同のあれとやまて　鈴木　尾空

おもしろ風同もゆるる梅の花　布雪

後のなきは山桜かゝるかな面　其雪

とゝまりてもゝゝられきの雪　苦雁

夕暮ふれば紅もなくて　梅の月　梅便

川春のゝゝなるかの梅の香　家面

ふとゝてみ新さゝ入や梅のゝ　白雪

もゝゝゝて春はかの梅の月　百地

花咲ゝなる時ゝるゝ紅の　宗雪

さらぬ[illegible]の本[illegible]　南嶽
きのけに[illegible]の物[illegible]　土師
まこと[illegible]　桜物　斗雪
アラの[illegible]の用[illegible]　六甲也
和[illegible]の[illegible]　南岳
仁和[illegible]　雪松
[illegible]　居士
[illegible]　月峰

[illegible]の[illegible]　梅花　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の用[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]の月 卯尖
[illegible] 大阜
[illegible] 水種
[illegible] 牛有
[illegible] 墓穴
[illegible] 梅間
[illegible] 水地
[illegible] 桂五

[illegible]の月毎日[illegible] 岳[illegible]

山[illegible]

[illegible] 吉郎
[illegible] 南[illegible]
[illegible] 五十口 [illegible]
[illegible] カヒ 有変
[illegible] 歳分
[illegible] 曙

人のまゐらせたるをあらためたるの風　この歌重
俗人の袖をかたらふ新の恋　（イセ）物語
野原のをるまたらの露の　たつる
恋をまて吹ちらすかぜ　れ身
あるやたはのおもいつるを　おもと

俗人に逢

門の目をむすびて　ひとりに寝　桂堂
きみ待るまあるを　会せて水の　（ヤ）　大き深

おもうなくなみ　みるを　みて　梅文
をあるる　ら　ゆ　（イカ）士は
をのおほ　と　思る　きる　拾宝
恋の　あ　恋の　あるの　（アフミ）仙風
いるる　ちる　なて　神　多新
あるる　まる　恋の　る　寄て
梅の　目　あ　れ　恋あ　千曲
ちるや　ほ　て　恋　の　ちて

初桜あまてらす時の面　亜流
面の色はなれども月よりの光成　雪江
雪月や色井のひとさとのの狂る　屋州
芭蕉の色ふかくよりなりぬ　文学
松風ふかさ狂るもの月　青ノ
ふるのさびしの木槿このる　乙鶴
もの和れ梅の花　宗坪

二月　時雨三日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゆるに日おとなるあるなるの　物在
くくるなるや行ゆのくくに一枝る　まふ築
物るくるまくくるくいおくるる　雲雨
くくるかく俄くもはるるあるの（ノト）　雲出
袋るくくくくくるる　卓他（ミカハ）
一るくくくもまのくくるるなるる　まれ果
丁なるくるるくくくくくくくくく　紋章
節の者いはるるくくるるるるる　日人（ムツ）

丁なくくまくくくくるるるるる　し二
末ふいくくくくくくくくくくくる　冥て
月くくくくくくくくくくくくくる　格別
れるふるくまくくの後るる　巣器
くくくるるるくくくくくくくくる（ヤシト）　の羽
月のるくくいくくくくくくくくる（エト）　ここ
さくくるるるくくくくくくくくる　一巣
四十るくくくくくくくくくくくる　久城

仰のぐや拾伯の鍔の家ノ図
金もう一むすびし橘の実　茅舎
二階さくやひくみかあれの筋　素堂
もの仏を一日もれなくもかな　宗長
れたまる二月の梅の実みれば　心
ほくふくむひくて紅さる　茅舎

上野にて

ちさ屋もおくあれもれ風　蕉

もの風の仏をの仰ぐし　仰ぐ川（トフカ）　を節
おくきる扇命　ひかりの仏の茅（サカシ）　茅舎
人にの秋に月まての山さく（上フカ）　南海
をやひくみをもてあり　もの風（冬ハ）　秋
名月やつくと上る弁ちら　雪中
鮎川のなる生ぬてるの月　由保
こかしのゆみ九あ月抜れ　宗鼎
雪月の柳ゆかあふ　蕉雪の柳　鯉三

[illegible] 柳 め川
[illegible] 牛蒡
[illegible] 汁 何止
[illegible] 角力 [illegible]
[illegible] 日 [illegible]
[illegible] 相撲 [illegible]
[illegible] 桜 [illegible]
[illegible] 一白 [illegible]

[illegible] 時 [illegible]
[illegible] 蒲 [illegible]
[illegible] 自 魚[illegible]
[illegible] 面 瓜涼
[illegible] 坂[illegible]
[illegible]
[illegible] 日 [illegible]
[illegible] 拍子 魯[illegible]

紙書の山をうしろにおくゑの面　東紙
屏すてに桂の木の陰のもとにかくれ　陰西
みなとやうなれよりの光の義の風　左縫
なるの氣を入さゝれ小さなる物　陶三
蛙なるのゆもかゝふきて光の段　杜なる
一時白ちまてもとるゆゑ　子後
入る人のあるとにうちゆる柳　少青　辰義
なしとあのゆるてうまの面　五柏

ゆまちゆるの光の人　起毛
みすてに立くなるとりの陰の風　東子
ちゝ風のうちうまみるのみまし　まゝ毛
まゝ風のゆらしなる花くゆ松ゝ　うのめ
松ゝ涼しゆゝ深やゝる　鳥　魚友
雲の陰おもひのゆゝ動ゝ　丁巳
陰ゝ風雨も一日は大松引　岡眠
出の史乃ほゝ　ゆかるゆ義　兎白

稲まのるるもちるる松不　毒ゑ
ゑ月やくるとくるるとくるの毒　お吹
ふもとの稲まるるもとゆるふ　枝青
ゐるや芝ちてもみゆふ里のもも　眠皇る
ゆ仏のもる家ゑなるもるるる　ゆ尊ゆ

不来方

咲いるるくるも四季ゑ　桜色　芝稲
ゆのる月の有ちる源るるゆ　ゑ雪

桜不ちる稲ゑゆ　仲の毒　不来方
ゑの仏ゆ芝ゆ咲ちゆ　芝みゆ　芝の月
ゐゑゑの毒いく　稲月ゆるる月　月ゆ毒
ゑるちるる映ゑるゆ芝のも　きぬめ
ゑるやゆゆるの芝ゆゑゑ毒　いくめ
ゑるるや芝ゑゆゆ芝ゆ毒ゆ稲　九　朴

蕉門俳諧書林 京三條麩屋町東ヘ入
菊舍太兵衛
色帋 短冊 西甲切 表ノ扇枠 短冊枠
矢立 石刷 清書料紙 其外一式 仕立